

我妻 昇議員の質問

○佐々木謙二議長 次に、順位11番、議席番号3番、我妻 昇議員。

(3番我妻 昇議員登壇)

○3番 我妻 昇議員 よろしく願いいたします。

きのうの天候とは打って変わりました、冬に戻ったということで、改めて厳しい冬なんだなと、春ではないんだなということを感じさせられました。それにしても、きのうは上着の着脱を認めるほどの天候だったわけですが、それが果たしてきのうのことだったのか去年のことだったのか錯覚に陥るほどの、この天候の変わりぐあいということではありますが、私は、3月議会に当たり通告しております点について順次質問していきますので、よろしくご答弁のほどお願い申し上げます。ただ、3番目の「健康増進・生きがいつくりにも産学官の連携を」につきましては、都合により今回は割愛させていただきます。今後折を見てその議題について取り上げますので、ご了承いただきたいと思っております。

さて、今やレインボープランに匹敵する長井市を代表する顔となっております工業界における産学官の連携についてですが、NHKを始めテレビ朝日、テレビ東京、日経新聞や業界紙、大学教授の著書などで数多く取り上げられ、全国から視察者が絶えません。工業高校などの学校関係者、その学校を抱える行政や商工会議所、工業を中心とした会社経営者、農業関係者、市町村議員や議会議員など多岐にわたっております。昨日、一昨日と再三にわたり経済の不況、雇用の不安、またその対策について議論されておりますので、私はあえてそこには触れず、このまま話を進めさせていただきます。

なぜそれほどまでに長井市が注目されるのか、

それは皆さんがご存じのことと存じますが、若干ここで触れさせていただきます。以前は典型的ないわゆる荒れた工業高校であり、廃校の対象とまでなった長井工業高校でしたが、卒業されたOBの方々、学校後援組織、地域住民、そして教職員と行政が一丸となって統廃合の反対運動、学校の存続運動を盛んに行いました。そのかいあって、県は統廃合を見送り、そればかりか、さまざまな働きもありましたけれども、校舎の新築と3学科制から4学科制への再編を勝ち取ることができました。その陰には、学校を卒業した元生徒たちがどのように地元で活躍しているのか、地元企業から学校に対してどんな期待が寄せられているのかを徹底的に足で調べた教職員の努力、「工業高校は人材の宝庫、地域の宝」であるとし積極的に学校や行政に働きかけた地元企業の努力がありました。中でも一番の立て役者である吉田製作所の吉田社長の活躍は言うまでもありませんが、その中で私が感動した言葉を紹介いたしますと、「長井で仕事をし、生活している我々はここから逃げ出すことができない。将来の長井を託す人材がもしも育たなかったとしたら困るのは我々。だからこそ長井の子供は地域で育てる」。温かくも腹の座った言葉であります。それを受けてか、生徒たち自身も変わりました。目的、目標を持って授業に臨み、技能検定試験の合格者や各種大会、コンテストの入賞者がどんどんふえました。最近では、デジガモ、二足歩行ロボット、ロボット人形焼きなど、見た目に映える連携事業などにも取り組んでおられます。企業と産業との関係において相思相愛状態が成り立つのは珍しいという評価を受けながら、成功事例として全国的に有名となっているところであります。私は、この産学官連携こそ他のさまざまな分野でも学ぶべきだと考えているのであります。

また、もう一つ違った面から最近長井が注目を浴びたことを紹介いたします。これも皆さん

ご存じのことと存じますが、長井北中の「まちなかデザインプロジェクト」でございます。以前はアートプロジェクトとして美術のプロジェクトをまちなかに置き発表していましたが、今年度は地域の問題点を見つけ出し、その解決方法を考え、発表するという壮大な取り組みとなりました。先生がそろえた資料を参考にしながら、中学生が自分たちで長井市の問題点をたくさん探し出します。その問題点を整理したり絞り込んだりする方法も学びながら、現場を見に行き、商店街の人から話を聞いたり質問したり、具体的な解決方法を見出ししていくのです。それを大きなパネルに表現し、その発表方法を皆で考え、リハーサルを何度も繰り返したのです。発表当日、最初はかたくこわばっていた表情も、訪れた地域の方たちとのコミュニケーションによって和らぎ、生き生きとし、やがて自信を持つようになるまで成長します。95件もある提案のうち当日私は15件ほどしか見ることはできませんでしたが、後日すべてを見せていただきました。その中で私が一番びっくりしたのが、つつじ公園のマスコットキャラクターを考えた発表でした。それは225歳の派手なおじいちゃんという設定のキャラクターでした。名前は「つつじっちゃん」です。何とも言えない愛きょうと強烈なインパクトを兼ね備えていて、見た人の心を奪います。また、ほかに感心させられたのが大きなけん玉の形を弁当の提案です。大人であれば恐らく、発想はできたとしても、この特殊な形では高上りになるとして没になったことでしょう。ほかにも中学生ならではの自由な発想と奇抜なアイデアで長井の観光や商店街を活性化させる提案がなされました。その中で先日実際に採用されたのが、駅前のムスメヤ花店さんの包装紙です。また、観光協会でも採用しようとしているキャラクターなどもあり、社会に対する、長井市に対する貢献度は目をみはるものがあります。私は、この北中の取り組みにも

学ぶ点が多いと感じております。

ただいま紹介いたしました2つを踏まえまして、私は、これから長井市が発展し継続していくためのキーポイントとして以下の4つを挙げたいと思います。それは、まちづくり、観光、農業、健康であります。そしてそれらを支える最も重要なことは、教育と人材育成ではないかと思うのであります。現在、協働のまちづくりのパートナーであるNPO団体や公益団体、ボランティア団体、地区公民館などの活動が盛んに行われておりますが、反面、その組織の将来を担っていくであろう人材の育成に関しては、恐らくできずにいるか手薄になっているのではないのでしょうか。観光協会を始め長井の観光の柱となるような団体であっても、人材育成は後手になっているのだろうと感じています。現に経済再生戦略会議では、今後の課題として、人材育成、リーダーの育成が挙げられているようです。私は、行政としてこうした人材育成の課題に積極的に取り組むべきではないかと思うのであります。先ほどの吉田社長の言葉をおかりすれば、「長井の子は長井で育てる」ということであります。

長沼孝三先生が、「人間の形成に最も重要な条件はふるさとの自然環境、そして風俗、習慣である」と述べられたように、長井の歴史、自然、環境、風土、生活習慣など子供のときから単に触れるだけではなく、しっかりと学ぶことができ初めて長井を愛する人間が形成されていくのではないかと思います。これがすなわち長井の心の教育ではないのでしょうか。桜、アヤメ、ツツジ、黒獅子など長井を代表する観光、水路や古い町並みに触れるまちなか観光について学ぶことも教育の一環としてとらえるべきだと思います。観光はおもてなしの心です。これを学ぶことは、相手の立場に立ち相手を思いやる心、これもまた長井の心に通じるのではないのでしょうか。

+

長井市の第4次基本計画や施政方針、長井の教育の基本に長井の心があります。せっかく優秀な若者を育てても、長井を忘れ、都会に出ていかれてはもったいない。出ていったとしても、いつかはふるさとを思い出して帰ってきてほしいと願うものであります。長井を愛する心の育成がすべての原点になり得るのだと思います。

先ほどの工業界における人材育成が高い評価を得たように、また北中のデザインプロジェクトのように、まちづくりや観光の面からも教育的視点が重要ではないかと思いましたので、以下質問するものであります。

小中学校の教育の一環で副読本などを利用し、積極的に長井の歴史や自然環境、風俗、習慣などを学ぶ時間をふやせないかということであり、現在、小学3、4年生で使用している副読本も大変すばらしいものですが、もう少し視点を変え、まちづくりや観光といった面も取り入れ、小学校、中学校を通して使えるような副読本にできないでしょうか。観光を学ぶということは相手を思いやる心を育てることにつながります。いわば観光教育と言っていると思いますが、取り入れてはいかがでしょうか。通告には観光連携型まちなか活性化と限定してしまいましたが、観光全般のことととらえていただきたいと思えます。市長または教育長のお考えをぜひお聞かせ願いたいと思えます。

重ねて、特に北中のまちなかデザインプロジェクトについての感想についてもお聞かせいただければ幸いです。

企画調整課長からは、教育委員会とぜひ連携をとり、より充実した副読本づくりを期待するものでありますが、どうお考えになるのか、また施政方針の中で「NPOは単なる業務の委託だけではなく、まちづくりのパートナーとしての育成支援に努める」とありましたが、その内容は具体的にどのようなものなのかもお答えいただきたいと思えます。お願いをいたします。全

体的なところにつきましては市長からご答弁いただきたいと思えます。

農産物のブランド化やレインボープランの推進にとっても人材育成が課題となっているのではないのでしょうか。最近、循環の理念が薄いと感じるのは私だけではないと思えます。食生活、生活習慣の変化によって生ごみが減るというのであれば悲しいことでもあります。野菜をつくり、収穫し、長井に古くから伝わる伝統的な食べ物について学ぶ機会が必要ではないかと思えます。例えば小中学校において、長井の農業やレインボープランの理念と現状について学び、実際にレインボー野菜をつくってみたり、みそ、しょうゆ、漬物などをつくったりしてはいかがでしょうか。多分何らかの形で現在も行われているかと思えます。しかし、あくまで将来子供たちがその担い手になってほしいという視点で取り組んでいただきたいのです。市長もしくは教育長にご答弁をお願いいたします。

そしてまた、北中のまちなかデザインプロジェクトをさらに発展させる上で、提案の中にありましたけん玉弁当や団子革命、レインボー野菜を使ったロールケーキといった各種のアイデアを家庭科の時間などを利用して実際につくってみてはいかがでしょうかと思えますが、あわせてご答弁をいただきたいと思えます。

3つ目の健康増進・生きがいつくりにつきましては、先ほども申し上げたとおり、今後機会を見て取り上げるつもりであります。

以上、壇上からの質問とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

○佐々木謙二議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 我妻 昇議員からは大変示唆に富みました具体的にご提言、ご意見をいただきましてまことにありがとうございます。

我妻議員がおっしゃってますように、まず人材育成、またリーダーの育成に積極的に取り組まなければならないなど改めて感じたところで

ございます。以下答弁させていただきますが、詳しい内容につきましては、特に教育等々につきましては教育長の方から詳しいことは申し上げます。

私の方からは、まず産学官の連携ということでもありますけども、先日、3月2日に長井工業高校の卒業式がございまして、私も祝辞を述べる機会がありましたので、その際申し上げましたのは、一橋大学の関先生の言葉をおかりしながら、「皆さんは日本一の工業高校を卒業するんだ」と、「そういった誇りを持って自分の人生、そして地域のために努力してほしい」ということを申し上げましたけども、そこが一番の立て役者といいますか、それはやはり先ほど吉田さんの話がありましたように、地元の産業界の皆さんの物心両面にわたるご尽力だなと思っております。そういった意味では、そもそもなぜほかの地域からもいろんな視察に見えられますけども、なかなかまねができない。それは、学校側だけでできることではない、あるいは生徒だけでできることではない、しっかりとした長井の場合は戦前、戦中に東芝の工場を誘致してきたという先人の皆様の努力が今違った形で花開いているんだなと思ってます。ですから、マルコン電子が約60年以上にわたってこの長井を中心とした西置賜に与えたいろいろな影響が300社と言われる中小企業、技術を持った、そういったものづくりのまちとして育ててくださったと、それが大きな要素だろうと思います。我妻議員の趣旨は、それをぜひ今度は小学校、中学校まで掘り下げて、人材育成を含めて、ぜひ産学官で連携しながら地域の人たちと子供たちの教育も含めてアイデアを生かしたまちづくりということではないかなというふうに思っております。そういった意味では全く同感であります。その根幹なる部分が長井の心だろうというふうに思います。

副読本あるいは観光の教育といったもの、さ

らにはレインボープランや食農、食育よりも食農ですね、を学ぶ機会をふやす等々、ぜひ実現に向けて検討したいご提案だなというふうに思っております。ただし、新しい学習指導要領が小学校は2011年から、例の世界の教育レベルから見ても日本の小中学生の学力が低下してるとんじゃないかということから指導要領が変わりました。そんなことで、今まではゆとり教育とか総合学習ということではいわゆる今までの勉強以外に地域の学習とか、あるいは風習、環境とか、そういった勉強の時間が削られる可能性があるということでございますので、その実施については教育長から詳しくお話をさせていただきたいと思っております。

私の方からは、NPOは単なる業務の委託先ではなくまちづくりのパートナーとしてその育成支援に努めるとあるが、具体的にはどうだというような施政方針の部分についてお答え申し上げたいというふうに思います。NPOの支援策につきましては、単に補助金を交付するというような行政の補完的な、あるいは悪い言葉でいえば下請的なものに考えては決してならないと、公共をともに担うパートナーとしての力をつけていただくために行政としてもいろんな業務をお願いしていくというふうな私は考え方をしております。NPOの自立性を損なわないように配慮しつつ、また各NPOの実態やニーズを把握しながら、例えば市の業務や地域課題解決のための業務などを協働してできる業務内容をすり合わせていくということなどを一つ一つ整理しながら具体的な支援を検討していきたいと考えております。加えて、きのう安部議員の質問もありましたように、例えば市内のタクシー業界なんか、市の方で使ってやっているとことじゃなくて、やっぱり市の業務のパートナーとして、あるいはそれこそ建設業界もそうですけども、公共事業を発注する側、受注する側というよりも、むしろ同じ行政のパートナー

+

として公共施設を一緒につくっていくとか、そういった考え方でやっぱり市役所自身も我々市職員自身も意識を改革しなきゃいけないというふうに思っています。

また、協働のまちづくりや公益活動においては、NPOだけではなく、各地区や任意団体、ボランティア団体などがさまざまな分野で活動されておりますので、庁内の関係課と連携を図りながら、市民活動団体が活躍できるような地域づくりを目指し、支援策や育成策を講じていくように検討したいと思います。子供たちがまちづくりにかかわることが当たり前の中環境の中で育つことができれば、大人になりましてからもボランティアや地域活動、NPOといった公益活動におのずと参画していくんじゃないかなと思っております。将来の長井を担う若者がふるさと長井を愛する心をいつまでも持ち続けるためにもそういった風土を培っていきたくて考えておりますので、議員の方からも今後ともよろしくご指導いただきたいと思っております。私からは以上でございます。

○佐々木謙二議長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 我妻議員のご質問、8点ほどにまとめて、ちょっと長くなって申しわけありませんが、お答えをさせていただきたいというふうに思います。

まずひとつは、長井北中のまちなかデザインプロジェクトについての私の感想ということでお話をさせていただきたいと思っておりますが、長井市教育委員会の方では、長井の教育の柱が「長井の心を育む文教のまち」としてありますので、平成18年度から、長井の心育成推進事業を立ち上げて、予算をつけて各学校で取り組んでいただいております。長井北中では、先ほどもありましたけれども、平成18年度と19年度はまちなかアートプロジェクトとして、まちの中に生徒の作品を展示し、市民との交流を図る事業を2年間やってきましたが、教師側の方から新たな視点

の提示という提案があったそうで、バージョンアップしたのがまちなかプロジェクトということのようです。私から見れば、この新しい事業は、長井を愛し誇りに思う長井の心の育成事業であると同時に、今大事にされている職業観とか人間としての生き方を大人の人とのかかわりの中で学ぶキャリア教育の一環でもあり、課題を見つけ、調査し、課題解決のための方策を見つけ、提案する、このことは今求められている生きる力の育成そのものであるというふうに思っています。すばらしい活動だなというふうに思います。

今年度のデザインプロジェクトの中から商品化されたものということで、先ほどもありましたけれども、ムスメヤ花店さんの包装紙、これは3月5日、感謝状の贈呈があった。長井市観光協会の方はキャラクター「つつじっちゃん」「獅子舞黒（ししまいく）」がステッカーになりトラックに張られることになるそうです。計画が進行しているものとして、長井市内若手のお菓子屋さん、あやめ団子を検討中、再来年あやめ公園100周年記念に関連してベンチにキャラクターの採用の案もあるというふうな話をお聞きしています。生徒の反響もアイデアを採用されたことでとても満足しているし、「つつじっちゃん」のアイデアが採用されて、子供たちは「やったあ」とすごく喜んでいたということです。先生方もじわじわ反響が広がっていることを実感し、「これぐらい反響が大きいと1年ではやめられないのでは」、「どのように発展していくか」という声も出ているというような話も聞いています。今回の北中のプロジェクトは、斬新なアイデアで強力に推し進めるリーダーの教師がおったことと、やっぱり組織の力、生徒たちの前向きな姿勢がすばらしい活動をつくり上げたのだなというふうに思っています。また、大事なことはそれを高く評価してくれた大人の力、これが物すごく大きいのだというふうに思

います。子供たちには、固定観念で固まった大人の考えとは全く違った、時にはやっぱり奇想天外ともいえる奇抜な柔軟な発想力があります。時としてそれが活力ある地域づくりのかぎとなるのでないかなというふうに思います。そして、我々大人が子供たちの豊かな発想、積極的な活動を評価し、認めてやることでより一層地域課題に興味、関心を持ち、長井への愛着につながるものと思います。そういう意味で、今回の北中の活動は地域を刺激し、地域を動かすインパクトのある活動だったのではないかなというふうに思います。これは北中の活動だけでなく、やっぱり南中が進めているラブリー長井というボランティアの中で地域の方々の協力を得て地域貢献活動をしているとか各小学校で伝統芸能の継承とかボランティア活動、こういうことも今進めているわけで、これが、こういう長井の心の育成が将来自分が生まれた長井に定住し活躍する大人、またほかの土地に行っても長井を心のふるさととして活躍できる大人の育成につながるのではないかなというふうに思って、長井の心は進めていきたいなというふうに思っているところです。

ご質問の方ですが、小中学校の教育の一環で副読本などを利用し、積極的に長井の歴史や自然環境、風俗習慣などを学ぶ時間をふやせないかというご質問ですが、副読本「わたしたちのふるさと」は、平成14年度から長井市や山形県のことを楽しく勉強してもらうために社会科の授業で活用しています。小学校3年生では長井市のことを、そして4年生のときに長井市のことから発展させて山形県のことを勉強しています。内容は、長井市の様子として、学校の周りから始まって長井市全体の様子、市のいろいろな施設や活動、市の人たちの仕事、農家の仕事の工夫、工場の仕事の工夫、安全なまちづくり、健康を守る工夫、郷土に伝わる願い、私たちの県とまちづくりという構成になっています。副

読本の作成、編集は社会科の先生方を中心に教科書の改訂時期にあわせて行っているもので、ふるさと学習の時間として副読本を中核に教科書を併用しながら体験学習、社会科見学、調査活動を通して年間70時間から80時間の学習をしています。指導内容、指導時数を規制する学習指導要領の関係では、時間はふやすことはできませんが、内容の充実は可能というふうに思っています。小学校は平成23年度から教科書が新しくなりますので、それにあわせて産学官連携した編集委員会を組織して編集する方法も検討する必要があるのではないかなというふうに思ったところです。

2番目の観光を学ぶことで相手を思いやる心を育てる、いわば観光教育を目指してはどうか、現在の授業時間などの状況と実現の可能性はということですが、やっぱりもてなしの心、思いやりの心をはぐくむ観光教育を長井の心の育成の一環として総合的な学習の中で取り組めばやれないことはないと思いますが、観光教育をどういうふうに教材化するのか、また関係機関との連携をどうするのかなどの問題も出てくると思っていますし、何よりもこれまで学校が目的を持ってやっていた総合の内容をどうするか、こういう問題も出てくるんじゃないかなというふうに思います。多くのことが学校に期待されている中でかなり負担がかかることも予想されますし、今回のまちなかデザインプロジェクトのように校内に斬新なアイデアで組織をまとめ強力で推進するリーダーがいるかどうか、そういうことがかぎになるんじゃないかと思えます。ちなみに長井小学校では、長井の心育成事業として、フットパス学習を柱に、6年生は長井のまちを紹介しようという学習でパンフレットなどもつくっているということですが、観光客に合わせての時間のとり方が大変難しくて外部には出ていないというようなことで、これもちょっと工夫をすればおもしろいのかなというふう

+

に思います。長井の心の育成の一環として、観光教育のようなものもあるのではないかということは校長会の折にも話をし、何らかの形で取り組む学校が出てくればというふうに思っています。

小中学校において農業やレインボープランについて学ぶ機会をふやせないかということですが、すべての小学校において、主に3、4年生でレインボープランによるごみの減量、循環型社会について学習をしていますし、ミニトマト、ジャガイモ、エダマメなどの栽培学習についてはどの学校でもやっている状況ですが、漬物づくりとかみそづくりなどもおもしろいなというふうには思います。ただ、こういうことはやっぱり本来家庭教育の分野だったのではないかというふうにも思いますし、先ほど市長の方からもありましたが、新しい学習指導要領が小学校は2011年に完全実施されますが、学力低下などの問題もありましたし、外国語の時間、5、6年に入ってきます。そういうこともあって、総合学習の時間が35時間から40時間減りますので、学校の裁量の時間に余裕がなくなり大変になってくるのかなというふうには思います。中学校においても、3年の社会科の中で循環型社会と関連づけて台所と農業をつなぐレインボープランについて学習をしているようです。

7番目、北中のまちなかデザインプロジェクトにあるけん玉弁当や団子革命といったアイデアを家庭科の時間などを利用して実際につくってみてはどうかということですが、中学校の家庭科の中に地域の食材を使って調理しようという単元がありますので、教科担任の考え方によっては取り扱うことは可能ですが、来年度、西置賜を会場に技術家庭科の山形県の研究協議会があって、地域の食材のキクを扱った料理と決まっているんだそうです。指導時間も5時間きりないということで、教科の中では難しいのかなというふうに思いますが、北中の担当の方で

は来年度、家庭科と関係する教科の先生に手伝ってもらって、子供たちのアイデアを商品化するためのプロジェクトなどを考えているというようなことでした。ぜひ実現してほしいというふうに期待しているところですが、やっぱりこれも経費の問題とか指導者の問題もありますので、産学官の連携が大事になってくるのではないかなというふうに思っています。以上です。

○佐々木謙二議長 遠藤健司企画調整課長。

○遠藤健司企画調整課長 我妻議員のご質問にお答え申し上げます。

教育委員会と連携をとって、より充実した副読本というふうなご質問でございます。議員おっしゃるように、小さいころから自分たちの住んでいる長井市のこと、まちのことをできることからまちづくりにかかわるということは非常に大切なことだと思っております。そのためにまず関心を持つこと、知識を得ること、考える機会を持つことが出発点になるというふうに思います。学校という教育の場はその絶好の機会であるというふうに考えています。副読本の今、教育長が申しあげましたような改訂等の際には、学校や教育委員会と連携しながらまちづくりへの参加の視点が培われるよう、よりよい教材になるようにともに検討して協力してまいりたいというふうに考えております。

2点目のNPOの具体的な育成支援というふうなことですが、昨日、大道寺議員のご質問にもお答え申し上げましたとおり、市内の10のNPOは現在の事業については安定した一生懸命の運営を行っておられますが、なかなか次の協働まちづくりにはマンパワーが足りないということのみずからの課題としていらっしゃいます。市では、今後もNPOの活動を市報等で随時お知らせして、会員の募集、ボランティア、サポーターの参加を呼びかけてまいりたいと思っております。また、NPOネットワークの皆さんとの懇談、意見交換の場も設けなが

らお話をしていきたいというふうに考えております。

なお、21年度において取り組む緊急雇用創出、ふるさと雇用創出特別基金事業においてもNPOと協働で地域課題に取り組む事業を幾つか検討しております。こうした業務については、業務の一部の委託ではなくて業務全体の設計あるいは実行を委託するなどしてNPOと行政の協働の質を高めるといったことも育成支援に結びつくのではないかと考えているところでございます。以上でございます。

○佐々木謙二議長 3番、我妻 昇議員。

○3番 我妻 昇議員 ありがとうございます。

市長からもぜひ実現させたいというようなお話もいただきましたので、ぜひ、一番大事なものは吉田社長の言ったとおり長井の子は長井で育てるんだ、地域で育てるんだ、そういう気持ちですよね。その情熱、長井工業高校も先生方の情熱が本当にすばらしかった。それと産業界が合体したんだということで成功したわけですので、やはり今の長井の現状、非常に頑張っていて盛り上がっているわけですよ。いろんなところで頑張っていらっしゃる方がいるわけですが、大人になってからも勉強する場合も、たくさんあるわけです。でも、やっぱりNPOやいろんな団体が抱えてるとおり、次を担うのが見えないということですので、ぜひ長井の子は長井で育てるんだと、地域で育てるんだという、その基本姿勢を教育の場でぜひ貫いてほしいと、その意思の統一をしてほしいなというふうにぜひ市長にお願いするものでございます。

細かい話ですと、この副読本というのがあるんですけども、内容の充実は可能ということで、予算的な話もあるでしょうから、3、4年生だけになってるわけですけど、本当は中学生向けのものも欲しいなど、これはやっぱり3、4年生向けの内容なんですよね、見た感じも。中学生だったらやっぱりまた違った視点で物を

考えられるわけですので、その辺は産学官連携というような話もありましたけれども、ぜひ教育現場の方からいろんなところへ、学校、後援会ですとか頼む場があるかと思えますけれども、ぜひそういったことを考えてるんだと、ほんの数ページでも構わないから何か長井の役に立つような副読本つくりたいと思ってるということであれば協力していただける方も出てくるのではないかと考えておりますので、ぜひ小学校の3、4年生のだけの副読本しか、社会だけですので、もうちょっと多角的ないろんな面からぜひつくっていただきたい、その気持ちを持っていただきたいなと思えますが、もう一度市長からお願いをいたします。

○佐々木謙二議長 内容重治市長。

○内容重治市長 我妻議員おっしゃるように、やはり何事も新たな取り組みをする際には熱意がないとなし得ないと思います。先ほどの竹田議員からもありましたように、なせば成るということで、ちょっと今のところ、教育委員会としてはなかなか課題が多くてクリアしなきゃいけないものがたくさんありますけども、それはそれとして何とか少しでも1つでも2つでも実現できるように努力していくように検討してまいります。ありがとうございます。

○佐々木謙二議長 3番、我妻 昇議員。

○3番 我妻 昇議員 もう質問することもなくなりましたが、最後に意見だけ言わせていただきましたので、NPO活動についてはそんな答弁ですので、ぜひその現状をわかっていただいて、またマンパワーがないということもどこの団体もそうですので、そこをわかった上でぜひご配慮をお願いします。教育現場についても、非常に国の教育政策が変わったりして、非常に現場は大変だということは重々わかってるわけですけども、その中でいかに長井を愛する子供を育てるのかと、そういう視点にぜひ立っていただきたいなと思っております。以上でございます。

+

+

ありがとうございました。

○佐々木謙二議長 以上で一般質問は全部終了いたしました。

散 会

○佐々木謙二議長 本日はこれをもって散会いたします。

ご協力ありがとうございました。

午前11時26分 散会

+

+

+